

「おじちゃんせんせい、みてますか」

卒園児 小学一年生

「おじちゃんせんせい、だいたいだいーいすき。いっぱいありがとうございます。」

いま、ぼくは、このことばをおじちゃんせんせいにつたえたいです。

このほんは、ぼくのかよっていたほいくえんのせんせいをもとにしたおはなしです。とてもだいすきなほんで、なんかいもなんかいもよんでいます。みんな、おじちゃんせんせいのおひぎがだいすきでいつもとりっこでした。おひぎにすわると、あたたかくて、こころがほっとするからです。

けいたくんは、おひるねがきらいです。おかあさんがこいしくなっていないと、おじちゃんせんせいは、

「がまんせんでええぞ。おもいきりなげや。」

といってずっとおんぶしてくれます。けいたくんは、きつどうれしかったとおもいます。おじちゃんせんせいのせなかは、あたたかくておちつくからです。ぼくだったら、
「なかないで、はやくねなさい。」といってしまいかもしれません。

けいたくんは、かけっこもにがてです。でもおじちゃんせんせいが、いっぱいおうえんしてくれたから、ゆうきをもらえてはしる事ができました。

このほんをよむとほいくえんのことをおもいだします。おじちゃんせんせいにあいたくなくて、ちよっとさみしくなります。おじちゃんせんせいは、びょうきでおそらになりってしまったからです。ぼくは、もう一ねんせいになりました。おおきくなったし、がんばっているすがたをみてもらいたいです。そしておじちゃんせんせいのように、だれにでもやさしくできるひとなりたいたいです。

「おじちゃんせんせい、これからおそらのうえからおうえんしてね。ぼくね、ゆうきがでないときもあるんだけど、けいたくんみたいにあきらめないでがんばるからね。」

